

## よろこびあふれる心

ウォッチマン・ニー

### The Joyful Heart

Watchman Nee

6月1日

私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ってください【ピリピ 2:2】

聖徒たちに対して、一致を保つようにというこの要求は、すべての教会に向けて書かれたものではないことに注意していただきたいと思います。世界のどの教会もここから学ぶことはできますが、この言葉は、パウロがこの手紙を宛てたピリピの人々を名指して送られたものです。ピリピにあるあなたたちキリスト者、ピリピにある兄弟方であるあなたたち、あなたたちこそが一致を保つべき者たちです。

ここ福州で主を愛するあなたたちが、上海の教会の兄弟たちや、蘭州の教会の兄弟たちと一致を保つことは、それほど大切なことではありません。最も大切にすべきは、この街にともにいる人たちとの心の一致です。これが聖書が命じていることです。あなたの住んでいるところでこれが欠けているなら、あなたの教義はすべて、頭の中だけで唱える理想にすぎません。

June 1

Make full my joy, that ye be of the same mind. -  
Philippians 2:2

I would like to point out that this request for the saints to be like-minded is not addressed to the universal Church. Though the universal Church can learn from it, the words apply especially to the Philippians to whom Paul wrote this letter. You Christians in Philippi, you Philippian brothers, you are the ones who must be like-minded.

It is not nearly so important for you who love the Lord here in Foochow to be like-minded with the brothers of the church in Shanghai, or with the brothers of the church in Lanchow. What is of major importance is like-mindedness with those here in this city. This is what the Bible commands. If this is lacking in your own locality, all your doctrines are but fanciful ideals.

6月2日

それで、モーセは主に叫んで言った。「神よ。どうか、

彼女をいやしてください。】【民数記 12:13】

ミリヤムとアロンが一緒になって、モーセの置かれたら立場を非難したとき、自分を擁護する言葉は、この神のしもべの唇から一切、出てきませんでした。自分を守るために言うことは何もなかったのです。この出来事が終わるまで、モーセは自分が単なる傍観者以外の何物でもないという態度を取り続けました。彼には下心ひとつなく、人を咎めることも、言い争うこともしませんでした。

それだけでなく、モーセはすぐにミリヤムを許し、彼女が祈りを必要としたときは、すぐに祈り始める気持ちになっていました。その前に神の憐れみを味わった経験がなかったなら、アロンにこう言ったことでしょうか、『自分で神に祈ったらどうです。神は自分に語りかけていると、あなたは言い張っているじゃないですか。』しかし、キリストが自分を捕えた者たちのために祈ったように、モーセは直ちにミリヤムの快復を願い、求めました。ここで、モーセは、この命令を実行することを教えてください、『自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。』

June 2

And Moses cried unto Jehovah, saying, Heal her, O God, I beseech Thee. - Numbers 12:13

When Miriam and Aaron combined to challenge Moses' unique position, no words of self-vindication came from the lips of God's servant. He had nothing to say in his own defense. During the whole affair, he acted as though he were scarcely more than a spectator. He had no personal axe to grind; he neither reproved nor argued.

Moreover, he quickly forgave and was ready enough to pray for Miriam when she needed his prayers. Had he not tasted God's mercy he would have said to Aaron, "Why do you not pray to God yourself, since you insist that God speaks to you also?" But, like Christ who prayed for His captors, he readily pleaded for Miriam's recovery. In this he shows us the way to fulfill the command "Do good to them that hate you; pray for them that spitefully use you."

6月3日

あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから【1コリント 15:58】

私たちの働きが、真に神の力によって成し遂げられたなら、それは必ず結果を伴うはずで、とは言え、主によって任命を受けた後で8年、10年と働いたのに、何の目に見える成果もなかったと想像してみてください。それでも、それが神の命令であると言うだけの理由で、休むこ

となく働き続けることができるでしょうか？それが神のご命令であると言うだけで、仕える用意のあるものがどれだけいるでしょう？また結ばれる実を見るために働く者がどれだけいるでしょう？

神の働きはその性質上、永遠のものであって、ご自分のために働く者として、信仰を持った人間が求められます。今を生きている私たち人間にとって、神の働きを悟り、理解するのは難しいことです。それは、その永遠なる性質のためです。しかし、そのおかげで主イエス様のはたらきが、十字架で成されたことを覚えることができます。より大きなもののために、いのちを投げ出されたのです。キリスト者の働きもそのようであるべきです。今日、神は、ご自身と最後まで苦勞を共にする信者を必要とされています。それは、結果が目に見えなくとも、付いていく者です。

### June 3

Ye know that your labor is not vain in the Lord. - 1 Corinthians 15:58

If our work for God is truly accomplished in His strength, it cannot but bring results. Yet supposing we have been commissioned by Him and have labored for eight or ten years without seeing any results at all, can we continue to toil on faithfully, simply because God has commanded it? How many of us are prepared to serve solely because it is God's command? Or how many work for the sake of seeing fruit?

Since God's work is eternal in nature, He seeks men with faith to labor for Him. It is difficult for us humans who live in time to perceive and understand the work of God, by reason of its eternal character. But it helps to remember that the work of the Lord Jesus was that of the cross—losing for the sake of greater gain. Exactly so is the work of the Christian to be. Today God needs followers who will travail with Him to the end, whether or not they see results.

### 6月4日

自分の愛する者に寄りかかって、荒野から上って来るひとはだれでしょう【雅歌 8:5】

聖霊が見せるこの驚きべき光景に、私たちは惹きつけられます。ここにあるのは、教会の奇跡に他なりません。彼女は自分の世界を後ろに捨てて、荒れ野からこちらにやってきます。そして、彼女は上に向かって歩いています。天国と言う目的地に向かって進んでいるからです。それに加え、彼女は、愛する者に完全に信頼し、より頼んでいます。この荒れ野の世界から抜け出す道を自分で見つけることはできないと知っているの、彼女は相

手から離れることができません。そして、彼女が相手により頼み、またそばから離れないのは、義務感や恐怖からではなく、愛の心の故です。

ここに、私たちは巡礼教会が、前へ、上へと進んでいく様子を垣間見ることができます。そこにはキリストにある『いと高き』呼びかけがあるのです。なぜ私たちは、主が戻ってこられるのを、受け身の考え方で待つべきなのでしょう？霊の状態を正しく保つことで、主の再臨に備えることができ、そのためにこそ、主とともに前へと進んでゆくことが今、求められているのです。

### June 4

Who is this that cometh up from the wilderness, leaning upon her beloved? - Song of Songs 8:5

The Holy Spirit draws our attention to this surprising sight, which is none other than the mystery of the Church. She has the world behind her, for she is coming away from the wilderness; and she is making an upward movement, for she is advancing toward a heavenly goal. What is more, she is utterly dependent, leaning hard upon her Beloved. She knows herself to be incapable of finding her own paths out of this wilderness world, so she must keep close to him. And her dependence and nearness are not a matter of duty or fear so much as of heart love.

So we have a glimpse of the onward and upward movement of the pilgrim Church which has an “on-high” calling in Christ. Why should we wait for the Lord's return in passive contemplation? It is spiritual fitness which makes us ready for His coming, and that demands an onward progress with Him now.

### 6月5日

あなたがたはまだ、罪と戦って、血を流すまで抵抗したことはありません【ヘブル 12:4】

キリスト者が苦しみを受ける意味はどこにあるのでしょうか？殉教者にでもならない限り、私たちが罪に抵抗して戦っても、血を流すところまではいきません。それでもなお、私たちは与えられる役割に不平を漏らします。私たちはこの人生で、栄光の道を行くことを期待しているのでしょうか？白い衣に身を包み、天国の門に至る黄金の道をゆったりと歩きたいとも思うのでしょうか？

神はあらゆる種類の環境、あらゆるかたちの出来事、そして多くの苦難を用意されました。これは、主の子供、一人一人のうちに人格を植え付け、それを通してご自身の栄光を現すことを目的とされています。苦しみを受けるのは、主に認められている証拠なのかもしれません。罰を受けることは愛のひとつのかたちです。愛は測り、愛

には計画があります。神はすべての人にそうされないかもしれませんが、ご自身の子供として受け入れた者は必ずこのよう扱われます。

## June 5

**Ye have not yet resisted unto blood, striving against sin. - Hebrews 12:4**

What is the meaning of Christian suffering? Unless we are called to martyrdom, our resisting and striving against sin has not reached the point of bloodshed. Nevertheless, we still deplore our lot. Do we expect to have a prosperous road in this life—to wear a white linen garment and walk leisurely on a golden street leading to a pearly gate?

God has arranged all kinds of environment, all sorts of happenings, and many sufferings, all with a view to creating in each of His children a certain character which will glorify Him. To be scourged may be the evidence of His approval. Chastisement is love's arrangement. Love measures and love plans. God may not deal thus with everyone, but He certainly does so with those whom He has accepted as sons.

## 6月6日

**主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行ない、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか【ミカ 6:8】**

へりくだることは恵みであって、人を純粋な気持ちから動かすべきものですが、私たちキリスト者の中には、へりくだっていることを鼻にかけるあまり、心の中にある欺瞞がはっきりと現れてしまう人がいます。私たちは尽きることなく謙遜について語りますが、そこに現れるのは、パウロが『ことさらなる自己卑下(コロサイ)』と呼ぶものであって、内には隠れた動機があり、純粋な気持ちから出たものではありません。そんなものは、自尊心と呼んだ方があっています。

本当の意味でへりくだっている者はそうではありません。その人は本物です。その人は自然にふるまい、優しく語ります。主がされたように、『手ぬぐいを取り』ますが、これは、自分よりほかのものを大切にしているからです。自分を誇り過ぎることなく、人の手助けが必要な時はそれを乞います。それを見た人たちが、『あのよう喜んで仕える主とはいったい誰なのだろう?』と、訊ねあうのも無理のないことです。

## June 6

**What doth Jehovah require of thee, but to do**

**justly, and to love kindness, and to walk humbly with thy God? - Micah 6:8**

Humility is a grace that should genuinely move people, but the way some of us Christians parade our humility reveals plainly the falsity of our hearts. We talk endlessly of being humble, but only display thereby what Paul calls a “voluntary humility” (Colossians 2:18), having hidden motives and not the genuine article. It were really better to call it pride!

He who is truly humble is not like that. He is real. He acts naturally and speaks gently. Like his master, he will “take a towel...” for he esteems others better than himself. He is not too proud, either, to ask for their help when he needs it. No wonder men ask one another, “Who is his Lord whom he serves so gladly?”

## 6月7日

**私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました【ピリピ 4:11】**

パウロはキリストを知っていただけではなく、長い時間を経て、彼自身の存在の中にキリストが働くことを経験を得たのです。『私は学びました』と彼は言っています。文脈から判断すると、これは、肉体的な欠乏を経験したことを指しています。そのような経験を通して、時間はかかったとしても、前を向いた、非常にはっきりした変化が、彼の人格の内部に起こったのです。これこそ、私たち自身が必要とすることです。ただ、入れ替えられたいのちをもって、私ではなくキリストであると言うだけでなく、造り変えられたいのちを持つことです。もちろん、その一番目がなければ、決して二番目はありません。しかし、神は本当に二番目を求めておられるのです。主は私たちが本当の意味で造り変えられることを望んでおられます。

神の私たちに對するはたらき方を誤解しないようにしましょう。神が、特別な苦難と試みを与えるなら、そこには特別な目的があるのです。価値のある器や、よく整えられた道具は高い値段を払わなければ作ることはできません。安く作ることができるのは、質の悪い品物だけです。

## June 7

**I have learned, in whatsoever state I am, therein to be content. - Philippians 4:11**

Paul was one who not only knew Christ, but had had Christ wrought into his very being through the testings of time. “I have learned,” he says, and the context refers to experiences of physical want.



Through such experiences, which took time, there was a progressive but a quite definite change in his character. And this is what we ourselves need; not only exchanged lives, where it is no longer I but Christ, but changed lives. Of course we cannot have the second without the first, but God does indeed want the second. He wants a real transformation in us.

Let us not misunderstand God's ways with us. If He uses special trials and testings, it is for a special purpose. A valuable vessel or a well-finished tool cannot be produced without a high price being paid. Only poor quality goods can be produced cheaply.

## 6月8日

もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません【1ヨハネ 2:15】

今日、世が私たちを探したそうしています。外から来る力が今、人を捕えています。今日ほど、世の力を強く感じたことが、これまであったでしょうか？これほどお金のことばかり、話していた時代があったでしょうか？衣食のことが、これほど気になったことがあったでしょうか？どこへ行っても、キリスト者の間でさえ、会話の端にのぼるのはこの世のことばかりです。この世が、教会へ続く扉となってしまう、神の人々を手の内に引き込もうと狙っています。これを考えると、今この時ほど、私たちを解放する十字架の力を緊急に知ることが必要となったためしはありません。

イエス様は弟子たちに、このことを語って、勇気づけました。主はまた、弟子たちのためにこう祈りました、『彼らは世におりますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。』最終的に、私たちがこの世のものに触れるとき、自分の胸に訊くべき質問はこれひとつです、『このことは私と父との関わりにどう働くでしょうか？』

## June 8

If any man love the world, the love of the Father is not in him. - 1 John 2:15

Today the world comes and searches us out. There is a force abroad now which is captivating men. Did you ever feel the power of the world as you do today? Did you ever hear so much talk about money? Did you ever think so much about food and clothing? Wherever you go, even among Christians, the things of the world are the topic of conversation. The world has advanced to the very door of the Church and is seeking to draw God's people into its

grasp. Never in this sphere of things have we so urgently needed to know the power of the cross to deliver us as we do at this present time.

Jesus spoke reassuringly to His disciples about this. He also prayed for them: "These are in the world, and I come to thee. Holy Father, keep them in Thy name." Ultimately when we touch the things of the world, the only question we need ask ourselves is, "How is this thing affecting my relationship with the Father?"

## 6月9日

たとい、バラクが私に銀や金の満ちた彼の家をくれても、主のことばにそむいては、私の心のままにすることはできません【民数記 24:13】

バラムの言葉は、彼の口から神の言葉が発せられたときのみ、預言となります。彼は神の霊が降りた時にだけ、自分の良心の状態にかかわらず語ります。語っているのは、自分の言葉ではなかったのです。神が、彼の口を借りて自分の言葉を発していたに過ぎないのです。バラムが、そこに自分の考えや感じ方を加えようと思ったら、その瞬間、神の言葉ではなくなっていたでしょう。

神の言葉が、主イエス様を通して伝えられるときは、まったくこれと違っていました！かつて、神はご自身の言葉を広めるために、人間の声を用いてきました。最後の預言者であったバプテスマのヨハネでさえ、荒野を渡ってくる声に過ぎなかったのです。しかし、主イエス様のみもとに来る時、主の心がどこまでも変わらないことを見て、私たちは、主が生ける神の言葉であることを語らずにいられなくなります。主が口を開かれるとき、そこには神の言葉がありました。しかし、神が口を閉じたままでいられる時も、その言葉は、主の素晴らしい人格の内に生きていました。

## June 9

If Balak would give me his house full of silver and gold, I cannot go beyond the word of Jehovah. - Numbers 24:13

Only when the Word of God was voiced by Balaam did his words become a prophecy. He spoke as the Spirit of God came upon him and irrespective of his own moral condition, for he spoke in spite of himself. God was merely employing the man's mouth to utter His word. Had Balaam attempted to add his own thoughts and feelings, it would at once have ceased to be the Word of God.

How different is the way God's Word was proclaimed through the Lord Jesus! Earlier, God had engaged

men's voices to propagate His word. Even John the Baptist, the last of the prophets, was but a voice in the wilderness. When we come to the Lord Jesus, however, His consistency of character compels us to speak of Him as the living Word of God. When He opened his mouth, there was God's Word; but even when He kept it shut, that Word was still living there in His wonderful Person.

## 6月10日

私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐とにあずかっている者である【黙示録 1:9】

黙示録 6章 10節で、『いつまでですか?』と言う叫びが聞かれます。こう嘆くものは、それ以上忍耐を続けることは、とても無理だと感じているのです。彼らは、復讐と裁きを下すことを求めて泣き叫んでいます。もしも、忍耐を失うことが許されるとしたら、それは生きている聖徒ではなく、死せる聖徒から許されます。死者の方がずっと長く待っていたからです。それでもなお、彼らは忍耐のときはまだ、終わっていないと告げられています。

裁きについて多くのことが書かれている本の終わりに、ヨハネが自分を、イエスにある忍耐にあずかっている者と呼んでいることは特別な意味があります。裁きが執行されるとすぐに、忍耐は必要なくなります。ヨハネは、裁きについて書こうとしていた時、彼はまだ忍耐が必要な世界に生きていることを告げたのです。神がその怒りを地上に注ぐとき、忍耐の時は終わりを告げるでしょう。それまでの間、主はご自分の民にも、その忍耐にあずかるよう呼びかけられています。

## June 10

I John, your brother and partaker with you in the tribulation and kingdom and patience which are in Jesus . . . - Revelation 1:9

In Revelation 6:10 we hear the cry "How long?" Those who utter this plaint are finding it difficult to exercise patience any more. They cry for vengeance, for the execution of judgment. Surely if impatience is justified in any, it is justified in the dead saints rather than the living, for they have waited so much longer. Even so, they are told that the time of patience has not yet expired.

It is significant that John calls himself a partaker in the patience of Jesus at the outset of a book which deals so much with judgment. As soon as judgment is carried out, there will be no more need for patience. John, about to write on the subject of judgment, declares that he is still living in the realm

of patience. When God pours out His wrath upon the earth, then the time of patience will be over. Meanwhile, He calls upon His people to share with Him in it.

## 6月11日

神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです【ローマ 8:33】

罪を悔い改めるのは良いことです。しかし、自分自身の中の悪に、あまりに捕らわれてしまうことは間違っています。それを、キリスト者のへりくだりと勘違いしてしまうことが、非常に良くあるのです。その時、それがサタンの告発を受けて、大きな傷を負っていることに気づいていません。確かに、罪を犯したら、それを告白し、対処してはいけません。しかし、他にも学ばなければならないことがあります。自分自身ではなく、主イエス様を見上げることです。

いったん、神の子供がサタンの告発に捕らわれると、一日中、自分が悪いのだと思い続けることとなります。朝から晩まで、働いていても、休んでいても、歩いていても、聖書を読んでいても、また、祈っていても、自分が何の価値もないものだと言う思いに縛られています。神の言葉は、神の御子、イエス様の血が、私たちをすべての罪から清められると語っています。『すべての罪』と言うからには、大小に関わらず、あらゆる罪が浄められるのです。

## June 11

Who shall lay anything to the charge of God's elect? It is God that justifieth. - Romans 8:33

To repent for sin is good, but to become engrossed with the thought of our own evil is wrong because we too easily mistake this for Christian humility, not realizing that we are but suffering the harmful effects of Satan's accusations. Of course it is true that when we sin, we must confess it and deal with it. But there is another lesson which we must learn. It is to look, not upon ourselves, but upon the Lord Jesus.

Once a child of God accepts Satan's accusations, all day long he will feel that he is wrong. From morning till evening, whether working, resting, walking, reading the Scriptures, or praying, he will be consumed with the thought of his own worthlessness. The Word of God tells us that the blood of Jesus, God's Son, cleanses us from all sin—and "all sin" means any sin, whether it be great or small.

## 6月12日

ですから、私たちは、パン種のはいらぬ、純粋で真実なパンで、祭りをしようではありませんか【1コリント5:8】

聖書の中でパンを裂くことには二つの意味があります。ひとつは主を覚えること、もうひとつは、すべての神の子供たちとの交わりを表すことです。私が、この地上の神の子供たち、ひとりひとりに交わりの手を差し出すことは、文字どおり、不可能です。しかし、来る主の日には、主の名の下にここでパンが裂かれると、それは地上のあらゆる場所に手渡され、主の人々は象徴的に同じパンに触れることとなります。

どこにしようと、信仰によって私と同じ生けるパンにふれます。このようにして、私は、すべての真の神の子供と触れ合っ、かかわりを持つこととなります。こうして私は、主とともに、すべての兄弟姉妹と会いまみえるのです。私は、同じ土地の集会でパンを共にする人たちと交わるだけにとどまらず、同じいのちのパンに触れようと手を伸ばす全世界の人たちと交わるのです。私たちはどれほど多く、異なっていようと、キリストにある一塊のパンなのです。

## June 12

Wherefore let us keep the feast . . . with the unleavened bread of sincerity and truth. - 1 Corinthians 5:8

The breaking of the bread has two meanings in Scripture: one is to remember the Lord and the other is to express fellowship with all the children of God. It is literally impossible for me to give the right hand of fellowship to every one of God's children here on earth. Yet on the Lord's Day His people touch symbolically the same bread, as they break it in His name here and therefore throughout all the earth.

Wherever they may be, they touch by faith the same living Bread as I. So in this way I relate by touch with all the true children of God. Here I meet all my brothers and sisters, as well as my Lord. I not only have fellowship with those who share the bread with me in my local meeting, but also with all whose hands are outstretched to touch the same Bread of Life throughout the world. We, though so many and so different, are yet one loaf in Christ.

## 6月13日

私たちはそこを出て、旅を続けることにした。彼らはみな、妻や子どももいっしょに、町はずれまで私たち

## を送って来た【使徒21:5】

もし主が今日の私たちの教会に恵み深くあられるなら、そこに加えられる者の半分はキリスト者の子弟、残りの半分が世から救い出された人となるでしょう。福音が、人を世から救い出すことは確かです。しかし、同じ地域に住む人が新たに加わるばかりで、教会員の子供が信者にならなかつたら、その教会は強くなれません。キリスト者の家族からも、一貫した流れがあるようにと、いつも願ってください。例えば、テモテは、ロイスとユニケの影響を受けて導かれたことは間違いありません。そうなれば、教会は大きく、豊になるでしょう。

自分の子供たちを神の元に導くために、まずあなた自身が先を歩み、彼らに後をついてきてもらいましょう。あなたが信仰の尺度を定めてそれを追い求めるなら、それは子供たちの信仰にも大きく貢献するでしょう。

## June 13

We departed, and went on our journey; and they all, with wives and children, brought us on our way. - Acts 21:5

I trust that if the Lord is gracious to our churches today, half of the people added to them will be the children of Christian parents and the other half will be people rescued from the world. The gospel does indeed rescue people from the world, but a church cannot be strong if the increase comes only from that quarter and not also from the children of its members. We should hope to see a steady flow coming also from Christian families. People such as Timothy must be brought in through the influence of a Lois and a Eunice. Thereby will the church be greatly enriched.

To lead your children to God, you must yourself walk ahead and let them follow. The standard of faith which you pursue will contribute largely toward theirs.

## 6月14日

わたしは、愛する者をしかつたり、懲らしめたりする【黙示録3:19】

ラオデキアのキリスト者たちは、主が真に富んでいると認めたスミルナの人たちと、どれだけ違っていたのでしょうか。ラオデキヤの人たちは、多くのことを誇りとする素晴らしいキリスト者となれたかもしれません。しかし、彼らが自画自賛せず、称賛は他の人に任せておけば、もっと良かったでしょう。

霊的な物事を鼻にかけるのはよくないことです。この世



の富を自慢に思うことは悪くありません。紙の金は使わなければなくならないし、知らないうちに額が減ってゆくこともありません。しかし、霊的な富は、自賛するたびに消えてゆきます。キリスト者が、自分は強いと述べるとき、力はなくなります。モーセの顔が本当に輝いていても、彼はそれを知ることはないのです。私たちはいつも自分が霊的に成長しているようにと願います。しかし、自分の進歩を自分で評価するのはよくありません。

## June 14

As many as I love, I reprove and chasten. -  
Revelation 3:19

How different were these Christians at Laodicea from those whom the Lord recognized as truly rich at Smyrna. The Laodiceans may well have been marvelous Christians with much of which to be proud, but it would have been better if they had not themselves boasted of it but had left it to others to applaud them.

Spiritual things are not to be boasted of. One can boast of worldly riches, and the paper money will not fly away unspent nor will the amount magically decrease, but the spiritual riches you boast of vanish with the telling. When a Christian says he is strong, at that moment his strength has gone. If the face of a Moses really shines, he is never the one to be aware of it. We always hope that we are growing spiritually, but it is not for us to appraise our own progress.

## 6月15日

モアブは若い時から安らかであった。彼はぶどう酒のかすの上にじっとたまっていて、器から器へあけられたこともなかった。それゆえ、その味はそのまま残り、かおりも変わらなかった【エレミヤ 48:11】

この節で語られている情景には説明が必要です。かすの上にじっとたまっているぶどう酒(発酵の過程で生じるもの)は、もう熟しきって変わることもなく、上の層は澄んでいます。下には苦い沈積物があって、入れ物を揺らすと全体に濁りが生じます。ろ過する技術がなかった時代には、ひとつの入れ物から、静かに別の容器に移し替えることで、葡萄酒の濁りを取りました。しかし、どれだけ熟練したものがやっても、少しはかすが残ってしまいます。何度もこの移し替えを繰り返して、かすを取り除いてあげないと、いやな味が残ってしまいます。

モアブはイスラエルの血のつながったいとこでしたが、この訓練から逃げてしまいました。イスラエルのように、ふるいにかけて、苦悩を通して、浄められたことがなかったのです。神がその苦い味がそのまま残ると言われるの

は、このためです。神が、今日も少し、明日はもう少しと私たちに訓練されることには意味があるのです。その目的とするところは私たちの中にいる救い主、主によしとされる人格、主の心にある喜びです。

## June 15

Moab hath been at ease from his youth, and he hath settled on his lees, and hath not been emptied from vessel to vessel . . . therefore his taste remaineth in him, and his scent is not changed. - Jeremiah 48:11

The imagery of this verse needs explaining. In wine that is settling on its lees (that which settles during fermentation), stationary and still, the upper level becomes clear; but beneath is a bitter sediment that will muddy it again if shaken. Before the days of filters, to clear the wine it was emptied carefully from one vessel to another, but however skillfully this was done some of the lees would get across. So the process must be repeated again and again to rid it of its unwelcome taste.

Moab, Israel's natural cousins, had escaped that treatment; had not, as Israel had, been sifted and purified through afflictions, with the result, God says, that her bitter taste still clung. There is thus value in God's discipline of us, a little today and a little more tomorrow. The goal is a savor in us, a character that meets with His approval, delights His heart.

## 6月16日

もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます【1コリント 3:14】

この火の試練の意味をよりよく理解するには、甦られたキリストの目が、『燃える炎のような』ということばで表現されていることを思い出すとよいでしょう。いずれくる裁きの時には、主は私たちの働きを、すべてをつらぬく光で探し出しますから、主の尺度が完璧なものであることは間違いありません。このためにこそ、私たちは今、日々、神の光のもとに来て、自分の働きが『神にあってなされた』ものであるか確かめているのです。

私たちは将来、神の賛辞を受けられるでしょうか。それは、今、どれだけ、主の御心を行って、主を喜ばせているかによって決まります。もちろん、私たちが受ける報いはどうでもよいことです。私たち全員の真の目的は主の御心を満足させることです。救われた人たちはすべて、主に喜んでいただくという同じ願いを持っているはずですから、裁きの座は、私たちが目指す目的地となり、そこでは主が受け入れてくださるという約束が待っているのです。

## June 16

If any man's work shall abide which he built thereon, he shall receive a reward. - 1 Corinthians 3:14

We will better understand the meaning of this trial by fire if we remember that the words "as a flame of fire" describe the eyes of the risen Christ. At the future judgment He will search our work with His own discerning light, and we can be sure that His standards are absolute. That is why we ourselves now come daily to the light of God to test that our work is being "wrought in God."

Whether or not we receive the Lord's praise in the future depends on how we please Him in doing His will today. Of course, our reward is a small matter; the real purpose of us all is to satisfy His heart. I believe that every saved person shares the same desire to bring pleasure to the Lord. That way the judgment seat becomes a goal before us that is full of the promise of His approval.

## 6月17日

私は、主のあわれみによって信頼できる者として、意見を述べます【1コリント7:25】

神は、ご自身が造られた人間が機械のようになり、自分で行動を選択することなく、ただ言われるままに動くものとなることを望んでいません。そのような機械を造ることは簡単なことだったでしょう。人間がそのようなものであれば、何の苦勞もなかったでしょうが、同時に神の栄光もなかったことでしょう。このようなかたちの従順さ、善良さに霊的な価値はありません。失敗も罪もありませんが、神聖さもないのです。このような従順は受け身のものだからです。神はそういったものを拒絶されます。

神は命令どおりに動く機械を欲していません。神は、自由な意思を持った人間を求めています。神にとって、言葉をつかさどるものとして人を選んだことで生じる危険は、織り込み済みのものです。人間がとても複雑で、罪と弱さという多くの問題を抱えたものと知りながら、神はその御言葉を人にゆだねます。最大の苦難を通してはじめて、神は最高の榮譽を受けるのです。

## June 17

I give my judgment, as one that hath obtained mercy of the Lord to be trustworthy. - 1 Corinthians 7:25

God does not want the man He creates to be like a

machine, having no freedom of choice, but having to obey perfectly. It would be easy for him to make such a machine. There would be no trouble with man, but neither would there be glory for God. Such obedience and goodness have no spiritual value. There may not be any fault or sin, yet neither can there be holiness, for the obedience is passive. God rejects such a thing.

God does not want an automaton; He wants a man with a free will. It is a calculated risk with God to choose man as a minister of the Word. Yet in spite of the complexity of man and his many problems of sin and weakness, God entrusts His Word to man. Through the greatest rigor God obtains the highest glory.

## 6月18日

主の前に静まり、耐え忍んで主を待て【詩篇 37:7】

神にあつて静まっているものは、外からの力で簡単に心乱されることがありません。その内なる力が不安と騒ぐ心を和らげてくれます。台風には目があります。風が吹き荒れている状況でも、その奥深く、中心にある目は、もともと静かな場所です。

主イエス様は外からの力で、揺れ動くことは決してありませんでした。最後のとき、一軍の兵士たちがたいまつと武器をかがげて、主を逮捕に来たときでさえ、主は一步、前に出て、誰を探しているのか尋ねました。ナザレのイエスを捕らえにきたことを知ると、主は静かに答えられました、『それはわたしです。』そう答える主に対し、兵士たちは後ろに下がり、地に伏しました。主を捕らえようとするものどもが、捕るべき相手に震えあがり、外側の力は主を動かすことはできませんでした。主の臨在の中心、台風の目にあつて、主は神とともに静まっておられたのです。

## June 18

Rest in Jehovah, and wait patiently for him. - Psalm 37:7

One who is at rest in God is not easily excited by outward stresses. His inner strength is what allays his anxieties and troubles of mind. To each hurricane there is an eye. At the circumference the wind whirls violently, but the eye, deep at the center, is most calm.

The Lord Jesus was never put off balance by outside influences. Even at the last, when a band of soldiers came to seize Him with torches and weapons, He stepped forward and asked them whom they were seeking. Being told that they sought Jesus of



Nazareth, He calmly answered, “I am He.” Met by Him thus, they retreated and fell to the ground. Those who would seize Him were terrified of the One to be seized, whereas the external stresses had no power to move Him. At the center of His being, the eye of the storm, He was at rest with God.

## 6月19日

天では、あなたのほかに、だれを持つことができます。地上では、あなたのほかに私はだれをも望みません【詩篇 73:25】

心のすべてをささげて主を愛することの大切さを、どれだけ強調しても足りません。神が求めておられることはこれだけです。主は他の誰にも、他の何事にも、私たちが心を傾けることを望んでおられないのです。主のことが、心の中でももっとも大きな部分を占めていたとしても、まだ満足されません。主は自分をどこまでも愛することを求められます。

主は、他の何かと自分を比較することを容認できません。私たちがもてるすべてを祭壇に乗せなくてはなりません。こうしてキリスト者は霊的な力へと向かうのです。そして、いけにえが祭壇におかれるとすぐに、いや、定められた最後のいけにえが捧げられた後、天からの火が降ってきます。祭壇がなければ天からの火もありません。私たちが心でキリストの十字架を理解しても、また、それについて尽きることなく語り合っても、聖霊の力を受けることはできません。持てるすべてのものを、主への愛のために、祭壇の上に乗せることで、初めてそれが可能となります。

## June 19

Whom have I in heaven but thee? And there is none upon earth that I desire besides thee. - Psalm 73:25

I cannot sufficiently stress the importance of loving the Lord with our whole heart. God calls for no less than this. He is unwilling to share our hearts with anyone or anything else. Even should He receive the biggest share, He is still not well pleased. He asks us to love Him totally.

God does not tolerate competition. Our all must be on the altar. This is the Christian's way to spiritual power. And shortly after the sacrifice is laid on the altar—nay, after the last sacrifice is duly placed there—fire will come down from heaven. Without the altar, there will be no heavenly fire. Neither our mental understanding of the cross of Christ nor our endless talk about it will give us the power of the Holy Spirit. Only our laying everything on the altar for love of Him will do that.

## 6月20日

心の一新によって自分を変えなさい【ローマ 12:2】

この節は心を強調しています。神の子供が、新しいいのちと、新しい精神を受けながら、頭の中身は変わらないままにまわっていることがあります。気持ちは愛に満ちていても、心は神から来るものに気付かずにいることもあり得ます。墮落した状態にあったとき、人はねじれた心、神と反目する心を持っていました。神はこのため、人の心を変えなければ、いのちを授けることはできません。悔い改めとは、元をただせば、『心の変化』と言うこと以外にありません。

しかし、変えられた後、精神の内側は清められても、頭の中に浮かぶ考えはまだ混乱したままということもあります。知識から生じる疑いが、解決できずに残っているかもしれません。キリスト者の心が一步一步変えられて行かなければ、その人のいのちは不安定なものとなってしまわずです。いのちが、知識より大切なことは誰も否定できません。それでも、いのちにおける成長のためには、知識を求めことは不可欠であり、日々の真実の基準は神の言葉です。

## June 20

Be ye transformed by the renewing of your mind. - Romans 12:2

This verse lays special emphasis on the mind. It is possible for a child of God to have a new life and a new heart, but to be without a new head. The heart may be full of love, while the mind remains totally lacking in perception of divine things. In his degenerate state man had a darkened mind and one that was at enmity with God. God must therefore alter man's mind if He would impart life to him, and so the original definition of repentance is none other than “a change of mind.”

After conversion, however, the intents of the heart will be pure and yet the thoughts of the head may still be confused. Intellectual doubts may remain to be resolved. If a Christian's mind is not progressively renewed, his life is bound to be unbalanced. Undeniably life is more important than knowledge; yet for growth in life it is essential to seek knowledge, and for this our daily standard of truth is God's Word.

## 6月21日

その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神で

あるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることで【ヨハネ 17:3】

信じることによって手にする永遠のいのちは、まさしく将来の祝福へとつながるものですが、現在の私たちにとっても大きな意味があります。今、ここで生きている人生は、御子であるイエス・キリストを通して、神へと続く道です。それがなければ、どれだけ考えを巡らせても神を知る助けとはなりません。主のことを論理で考え、聖書の教えと慣れ親しみ、また、主のために熱意をもって仕え、何かの働きをすることもできます。しかし、永遠のいのちを主からの贈り物として受け入れない限り、自分で知りえた主に関する知識を喜ぶことはありません。

理念としての信仰を持つことは、精神の中で神を知ることの代わりとはなりません。主イエス様を信じることは、目の前の現実として永遠のいのちに入ること、それを通して、それまでは知らなかった神の知識を発見することです。

## June 21

And this is life eternal, that they should know thee the only true God, and him whom thou didst send, even Jesus Christ. - John 17:3

The eternal life which we secure by believing does indeed relate to future blessing, but it also has a meaning for us today. This life constitutes here and now an introduction to God through His Son Jesus Christ. Without it, no amount of mental exercise can equip us to know God. We may reason about Him, we may familiarize ourselves with the Bible and its teachings, we may even labor zealously for Him in some field of service, but not until we accept life eternal as His gift will we discover and enjoy personal knowledge of Him.

Faith in human ideals is no substitute for knowing God in our spirits. To believe on the Lord Jesus is to enter into eternal life as a present reality and to discover thereby a knowledge of the true God that we never possessed before.

## 6月22日

しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられたのです。【ガラテヤ 6:14】

神は、あなたと私のところに来て、キリストが完成された働きを見せてくださいます。そのとき、神は、キリストともに十字架に付けられた私たちの姿を見せるだけではありません。主は、そこに私たちの世界をも示されます。もし、

あなたと私が十字架のさばきから逃れることができなければ、世界もその裁きを逃れることはできません。とは言え、私は自分が愛する世界を否定しようとしているではありません。十字架が世界を否定しているのです。私は自分にまわりつく世界から逃れようとしてはいません。十字架によって、私は既に逃れたのです。

質問させてください。あなたの仕事は何ですか？商人ですか？医者ですか？農夫ですか？この呼びかけから逃げないでください。肉体は世界から切り離されていても、霊的にも切り離されることにはなりません。その逆もまた正しく、この世と肉体的にはつながっているからと言って、霊も世界に捕えられているわけではありません。エデンの園には、人が作った壁はなく、サタンへの侵入を防ぐことができませんでした。神は、アダムとイブが自分たちで、『そこを守り、』敵に対する壁を心の中に立てることを期待されたのです。今日、キリストを通して、神は、ご自分であがなわれた人々の心の中にエデンを計画され、その中で、サタンがついに人の心に入り込むことができなくなるのです。これは大きな勝利です。

## June 22

But far be it from me to glory, save in the cross of our Lord Jesus Christ, through which the world hath been crucified unto me. - Galatians 6:14

When God comes to you and me with the revelation of the finished work of Christ, he does not only show us ourselves crucified with Christ on the cross. He shows us our world there too. If you and I cannot escape the judgment of the cross, then neither can the world escape that judgment. When I see this, I do not try to repudiate a world I love; I see that the cross has repudiated it. I do not try to escape a world that clings to me; I see that by the cross I have escaped.

Let me ask you: What is your occupation? A merchant? A doctor? A farmer? Do not run away from these callings. Physical separation from the world does not bring about spiritual separation; and the reverse is also true, that physical contact with the world does not necessitate spiritual capture by the world. Eden was a garden without an artificial wall to keep Satan out. God intended that Adam and Eve should "guard it" by themselves constituting a moral barrier to the enemy. Today, through Christ, God plans in the hearts of His redeemed people an Eden in which, in triumphant fact, Satan will at last have no moral access whatever.

## 6月23日

すべての聖徒たちが、あなたがたによろしくと言って

## います【2コリント 13:12】

一人の人間を聖徒に変えようと試みるのは無益なことです。罪人を救ってくれたことで、主を誉め称えるのは、その罪人がキリストの体の一部となれるからです。神は、キリスト者が、ひとりだけ、孤立したままでいることに満足されません。神の願いはただ一人の方にあり、小さな人間たちのあるじとなることではありません。十字架と復活は私たちが御体へと向かわせます。

そのとおりに、実践しなくてはなりません。ロンドンについて書かれた本を読んでも、その街に行ったことにはならないように、また、たくさんのレシピが載っている本を持っていても、台所に入らなければ何の価値もないのと同じで、私たちも、キリストの御体について教えられたことを信じるだけでは十分ではありません。清くなることを学んで、他の信者とともに、実践することが必要です。個人的な目標は捨て去って、他の人たちとともに動き、仕えることを学ばなければなりません。このとき、キリストにあるものを聖霊によって増し加えていただくだけでなく、時には、自分のうちから何かが、痛みとともに取り去られるでしょう。それは、十字架によって消えるべきものなのです。しかし、痛みがあってもなくても、私たちは御体の一部として行うべきことを実践しようではありませんか。

## June 23

All the saints salute you. - 2 Corinthians 13:13

It is futile to seek to produce individual saints. Praise the Lord that individual sinners are saved, but this is that they may become members of Christ's Body. God is never satisfied with single, separate Christians. The divine goal is one Man, and not a host of small men. The cross and resurrection point us forward to the Body.

This must be put into practice. Just as reading a book about London is no substitution for visiting the city, and just as having a cookbook full of recipes is valueless until we go into the kitchen, so it is not enough that we believe what we are taught about the Body of Christ. It is essential that we learn and practice our holiness together with other believers. We have to renounce purely individual goals and learn to move with others and wait for others. Often we shall find this means not only adding to us what is of Christ by the Spirit, but also subtracting painfully whatever in us needs to be put away by the cross. But painful or not, let us practice our membership of the Body.

## 6月24日

すると三人の勇士は、ペリシテ人の陣営を突き抜け

て、ベツレヘムの門にある井戸から水を汲んで来た【2サムエル 23:16】

神の言葉のなかに、人が受ける苦しみについて語っているところがあります。そこでは、苦しみは神の子供たちが自分から望んで選択したのもので、それを通して神への奉仕となることを乞い求めているとみなされています。苦しみは無理やり負わされるもの、負わされていやいや従うようなものではなく、喜んで選びとるものです。ダビデの配下の勇士たちは、このようなかたちで危険に身をさらす必要はなかったのですが、主君が望まれていることを知ると、それに答えるためにいのちをも惜しまなかったのです。

キリスト者は、苦しみを進んで受ける心を持つべきです。神は、私たちの苦しみに限界を設けてくれます。しかし、私たちの側で、主のあかしと人の救いのための苦しみに、どこまで絶えようかと言う限界を決めるべきではありません。苦しみを受ける時は、感傷的な気持ちで行わず、苦難に立ち向かう精神を持って行うべきであり、その精神がある者には、苦しみを計算したり、怖気づいてしまう心はありません。すべては、キリストへの愛のために行われるのです。

## June 24

And the three mighty men brake through the host of the Philistines, and drew water out of the well of Bethlehem. - 2 Samuel 23:16

There is an aspect of suffering referred to in God's Word in which it is seen as the deliberate choice of His children, those whose consuming desire it is to be of service to Him. This is not something imposed upon them to which they reluctantly submit, but something they joyfully choose. David's mighty men need not have exposed themselves to danger in this way, but when they heard him express his longing, they hazarded their lives to satisfy it.

The Christian should have a mind to suffer hardship. God will put a limit to our sufferings, but there should be no limit to our willingness to suffer for His testimony and for the salvation of men. This mind to suffer is not a sentimental idea; it is the virile spirit of those who disregard careful calculations and the crippling fear of going to extremes, all for love of Christ.

## 6月25日

わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶ



### ことはできません。【ヨハネ 15:4】

とどまるとは、今いるところから動かないことを意味します。入ることでも、出ることでもありません。もし、まだそこにいなければ、その場にとどまるように求めることはありません。キリストは、自分から主の中に入り込むように命じていません。それは私の仕事ではなく、神のなさることです。どれだけ、努力しても、自分ではできないことです。主が私をそこに置かれました。主の命令は、外に出てしまうことのないよう、気を付けなさいと言うことです。

難しいのは、私たちには常に、外に飛び出したい言う気持ちがあり、また、サタンが休むことなく、キリストにある今の居場所からふるい落とそうと働いていることです。何かに失敗したという念に捕らわれるとき、自分はキリストの外にいてと考え、主から引き離されてしまったものと思いがちです。そんな思いが胸に突き刺さるときも、神への信頼を失ってはいけません。神は私たちをキリストの中にいつも留めてくださいます。主が私たちに求めることはただひとつ、態度と言動、また信仰において、その中に留まり続けることです。

## June 25

Abide in me, and I in you. As the branch cannot bear fruit of itself, except it abide in the vine; so neither can ye, except ye abide in me. - John 15:4

To abide means to stay where I am. It does not mean to get in or get out. I could not be asked to stay in if I were not already there. Christ never commanded me to get myself into Him. That is not my work, but God's. I cannot do it, however hard I try. He has placed me there. What He does command me to do is to take care that I do not get out.

The difficulty is that we are always prone to let ourselves be uprooted, and Satan is working unceasingly to shake us from our position in Christ. If we yield to some sense of failure, we imagine that we are out of Christ, and we tend to treat ourselves as though somehow we were displaced from Him. Yet even though we feel acutely that it is so, we must never allow ourselves to disbelieve God. He assures us that we are in Christ: all He asks us is that, in attitude and action as well as faith, we stay there.

## 6月26日

あなたがたは神の畑です【1コリント 3:9】

この墮落した世界で、物事は自然に神から離れていこうとします。耕作のような、まったく罪のなさそうなものを例にとってみましょう。エデンの園ではいのちの木が実をつ

けていたのですから、種を植えて耕すのは悪いことだと思うものはいないでしょう。それは、神の意図されたことでした。しかし、神の手の下を離れるとすぐに、トゲのついた草が生えてきました。人は罰として、終わることのない苦役と絶望のなかに置かれ、労苦の末に得た作物にも、必ず捻じ曲がった実がつくようになりました。『土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった』のです。

ノアを救い出したのは、回復に向けた神の偉大なる働きでした。地はすべてをはじめからやり直す機会を得たのです。しかし、人間が、すぐに、元に戻ってしまったのは悲劇的なことでした。『ノアは、ぶどう畑を作り始めた農夫であった。ノアはぶどう酒を飲んで酔っていた。』神の耕作地である教会は、これとはまったく違います！神の恵みを通して、教会はいのちの力を受け継いでいます。それに応えるだけで、教会はいつまでも神に向かって動き続けることができるし、道に迷っても神のいる方角を思い出すことができるのです。

## June 26

Ye are God's husbandry. - 1 Corinthians 3:9

The natural trend of things in this fallen world is always away from God. Suppose we take so apparently innocent a matter as agriculture. No one would suggest that in Eden, where the tree of life flourished, farming or gardening was wrong. It was God-appointed. But as soon as it was let go from under the hand of God, thistles grew. Man was condemned to an endless round of drudgery and disappointment, and an element of perversity marked the fruit of his toil. "Cursed is the ground for thy sake."

The deliverance of Noah was God's great movement of recovery, in which the earth was given a fresh start. But how swift, how tragic was man's reversion. "Noah began to be a husbandman . . . and he drank of the wine and was drunken." How different is the Church, God's husbandry! Through the grace of God she possesses an inherent life-power capable, if she responds to it, of keeping her constantly moving Godward, or of recalling her Godward if she strays.

## 6月27日

そして神は、「われわれに似るように、われわれのあなたに、人を造ろう。そして彼らに、すべてのものを支配させよう。」と仰せられた【創世記 1:26】

神は、天地創造のさなかで、すでに人にすべてのものを支配させるという願いを語っています。それに加え、自分の支配される場所、すなわち、この地を定められています。神の思いはこの地に注がれ、こうして、地はすべて

の問題の中心となる定めを負ったのです。

主イエス様が私たちに教えてくれた祈りは、やはり、この地のことに触れています、『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。』原文を見ると、最後の一文は、終わりの祈りだけでなく、3つのすべての祈りとつながっています。すなわち、御名があがめられること、御国が来ること、そして、みこころが行なわれること、このすべてが、『天だけでなく地でもありますように』と、語られているのです。言い換えるなら、天には何の問題もないのです。問題は地にあり、神が声高に述べておられるのは地のことです。私たちは祈りの中で、この地が神のものであることをうたいながら、人の支配を続けたいと思わないでしょうか？

## June 27

And God said, Let us make man in our image, after our likeness: and let them have dominion... over all the earth. - Genesis 1:26

Already in God's act of creation He makes known His desire that man should rule. Moreover, He marks out a specific area—namely, the earth—for His dominion. God's attention is focused upon this earth, which is destined to become the center of all problems.

The prayer which the Lord Jesus has taught us is also concerned with this earth. "When you pray, say: Our Father who art in heaven, Hallowed be Thy name. Thy kingdom come. Thy will be done, as in heaven, so on earth." In the original, the last phrase is common to all three clauses, not merely to the final one, so that the hallowing of His name, the coming of His kingdom, and the doing of His will are all "as in heaven, so on earth." In other words, there is no problem with heaven; the problem is with the earth, and it is for the earth that God contends. Shall we not, in prayer, exercise man's dominion by claiming this earth for God?

## 6月28日

徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい【ピリピ 4:8】

人の思いが貧しくなってしまう理由は、あまりに大げさに考えてしまうことにあります。自分の考えを浪費せずに、守ることを学んでください。自分の思いをいつも訓練してください。しかし、価値のないことにエネルギーを浪費しないようにしましょう。あなたは聖書を学んでいますか？ 分かりにくい部分を理解することに、腐心し過ぎないようにしましょう。著者である主ご自身を知ることが大切であ

り、小さな問題を説明できるかどうかは、どうでもよいことです。あなたは霊的ないのちのことで、思い悩んでいますか？ 霊的な問題に、知性の力を浪費しないでください。霊的な問題は、考えることではなく、神の光に入ることによって解決するのです。

何をどう考えるべきか、日々自分を訓練しなくてはなりません。神にとって、理由などどうでもよいとは思わないでください。神はただ、私たちの思いが、キリストの従順の中に捕えられることを望んでおられます。このことを理解してください。

## June 28

If there be any virtue, and if there be any praise, think on these things. - Philippians 4:8

The cause of much poverty of thought lies in thinking too extravagantly. Learn to conserve your thought, not waste it. Exercise your mind, but do not exhaust its energy on insignificant things. Are you studying the Bible? Do not dissipate your mental powers on minor difficulties of the text. When you know the Author Himself, it matters little whether you can explain these minor problems or not. Are you concerned with the spiritual life? Do not waste intellectual effort on spiritual problems. These are not solved by thinking, but by the entrance of God's light.

We must daily train ourselves in regard to our thoughts. Do not imagine that God wishes to eliminate reason, but realize that He only desires to bring our thoughts into captivity to the obedience of Christ.

## 6月29日

心の冷静な人は英知のある者【箴言 17:27】

私たちの精神は熱心であると同時に、冷静でもなければなりません。熱心とは、主への奉仕にどれだけ真剣に取り組むかという問題であるのに対し、冷静さは知識にかかわるものです。神は心の乱れているものを導くことができません。キリスト者が、このことを心に留めるだけで、多くの間違いを避けられるかもしれません。

感情が荒れた海のように高ぶっているときは、進む道を決めたり、何かを始めようとしないでください。感情が、混乱しきっているときにこそ、間違いを犯しやすく、心は感情に左右されやすいのです。心に平安がないときに、どうして善悪を見分けることができるでしょうか？ 感情が高ぶっていると、理性は欺かれ、良心すら頼ることができないものとなります。そのような状況でなされた決断は、あとで後悔の的となることが多いのです。冷静な精神をはぐくみましょう。神への道が開かれ、すべてを理解させて

くださるでしょう。

## June 29

And he that is of a cool spirit is a man of understanding. - Proverbs 17:27

Our spirit needs to be fervent, yet also to be cool. Fervency is related to diligence in the service of the Lord, whereas coolness is related to knowledge. If the Christian would simply bear in mind that God cannot lead anyone who is in turmoil, he might be spared many errors.

Never decide on any course or start to do anything while emotion is agitating like a roaring sea. It is in times of emotional upheaval that mistakes are readily made. The mind is easily affected by feelings, and with a restless mind how can we distinguish between right and wrong? As emotion pulsates, the understanding becomes deceived and even conscience is rendered unreliable. Decisions made in such circumstances are likely afterwards to be regretted. Cultivate a cool spirit. You will open the way for God to give you understanding.

## 6月30日

もしキリストにあつて励ましがあつて、愛の慰めがあつて、愛情とあわれみがあるなら…【ピリピ 2:1】

この『キリストにあつて』という言葉は、実に適切なところで使われています。もしパウロが、ピリピの兄弟たちに、愛と憐れみと寛大さにあつて一致を保つことを求めたとしたらどうでしょう。彼らは、そのような一致は確かに望ましいが、実現することはまず無理だと答えたでしょう。彼らはそれぞれが、自分の目標、理想と関心ごとを持っていました。自分の考えを捨てて、一致を目指すことなどあり得たでしょうか？

パウロは、しかし、キリストにある力の大きさを強調することから始めています。主がいなければ、打ち負かされるしかありませんが、キリストにあることから、彼らは主の中から得られるものを何でも利用できたのです。もし主に、あわれみも同情心もなければ、同じ美德を信仰者の中に見いだすこともできないでしょう。しかし、これらの美德はキリストの中にあり、主に属するすべての者たちは、そこからのちのみなもとと滋養を受けることができ、受け取った者は、主のはたらきのために、それを注ぎ出すことができるのです。

## June 30

If there is therefore any exhortation in Christ, if any consolation of love . . . if any tender mercies

and compassions. - Philippians 2:1

How timely here are the words “in Christ.” Suppose that Paul had exhorted his brothers in Philippi to be united in love and mercy and compassion; they could well have answered that although such unity was desirable, they could never attain to it. They each had their own goals and ideals and interests. How could they ever expect to abandon them and be so united?

Paul, however, began by stressing the power that there is in Christ. Outside of Him they would of course be defeated, but because they were in Christ they could draw freely on the resources which are found in Him. If in Him there were no mercy and compassion, these virtues would be impossible to find in His people. They are found in Christ, however, and thus provide, for all His own, the source and the nutrient of a life poured out in His service.